

第2学年 国語科学習指導案

天理市立福住小中学校 山本弥保

1. 単元名（教材名） 光村図書『クマゼミ増加の原因を探る』

2. 単元の目標

- データを用いた文章作成の方法を理解する。 (知識・技能)
- 本文とデータの連動性を踏まえて、根拠として必要なデータを読み取ったり、データの必要性や立証のために必要な情報を判断する。 (思考・判断・表現)
- 文章作成方法を工夫したり、本文の内容と周囲の環境と照らし合わせて考えることで日常生活に学習を生かそうとしている。 (主体的に学習に取り組む態度)

3. 取り上げる言語活動とその特徴

身の回りの環境についてのデータを集め、分析し文章化して整理することでデータを用いた文章の書き方と立証に必要な根拠(データ)を精選する学習活動に役立つと考える。

→自分の周囲の環境問題について仮説を立て必要なデータを集め立証する。

4. 単元について

(1) 生徒について（生徒観）

本学級は説明的文章において、1年生から論構成について学習を重ねてきた。そのため、本論におけるデータの提示の意義や本文との連動性を踏まえて本文を読解することができる。しかし、「検証においてどのようなデータが必要か」や、データ同士の関連性について考え読み取ることは難しいため、本教材を通して根拠ある文章の書き方について考えさせたい。

(2) 教材について（教材観）

本教材は、筆者が生まれ故郷の「クマゼミ」の鳴き声の大きさに疑問を持ち、過去から現在までの環境の変容、山間部、校外、市街地という場所の特徴に着目しクマゼミの増加の原因を検証した説明的文章である。この教材では気温の上昇や降雨量や時期の変化などデータグラフをいくつも用いており、本文にもそのデータの内容が反映されている。また、都心部における「ヒートアイランド現象」など現代の環境問題についてもわかりやすく説明されており、クマゼミの増加について環境的要因、社会的要因など多角的な視点から論じられている。そのため、この説明文は、データを用いた根拠ある文章の構成や、仮説から立証において必要なデータの精選について学ぶことができる教材であると考えられる。

(3) 指導について（指導観）

本教材では、データと本文の連動性と、提示するデータの順番と根拠の関係について興味を持たせたい。また、データがわかりやすく引用されているという教材の特徴を生かして、データを本文に引用する場合の述べ方や、必要データの精選について考える事ができるように支援する。

(4) ESD との関連

①この教材で働かせるESDの視点（見方、考え方）

- A 多様性…地域によって多くの生物が生息し、多様な生態系の中で暮らしていることを理解すること。
- B 相互性…私たちの生活と動物、昆虫、植物の生活が相互的に作用しあっていることを意識すること。
- F 責任性…人間本意の生活の営みや社会形成を行うことで失われるものがあることを自覚し、自分たちの生活に責任を持つこと。

②この学習を通して育てたいESDの資質・能力

- ・批判的に考える力…環境に与える影響について、このままの生活様式でいいのか見つけ直す。
- ・未来像を予測して計画を立てる力
 - …変化していく地域社会に対して、自分阿知賀持つべき価値観、取るべき行動について考え、地域のこれからのを計画的に予測する。
- ・つながりを尊重する態度
 - …人間の生活と生物の生態系をつなぐりを尊重する。また、地域保全、地域活性化について地域のコミュニケーションの強化を目指す。

③この学習を通して育てたいESDの価値観

- ・世代間の公正…過去と現在の比較、現代のあり方の検討
- ・自然環境、生態系の保全を重視する…自分たちの地域を守る意識を持ち、外に目を向ける
- ・幸福感を大切にする…「足るを知る」こと

④達成が期待されるSDGs

- 目標(1) まちづくり
- 目標(13) 気候変動
- 目標(15) 陸上資源

5. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・表現・判断	ウ 主体的に学習に取り組む態度
データを用いた文章作成の方法を理解している。	<ul style="list-style-type: none"> ・本文とデータの連動性を踏まえて、根拠として必要なデータを読み取っている。 ・データの必要性や立証のために必要な情報を判断している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章作成方法を工夫しようとしている ・本文の内容と周囲の環境と照らし合わせて考えることで日常生活に学習を生かそうとしている

6. 単元の指導と評価の計画（全7時間）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価基準と評価方法（ ）
一	1	<ul style="list-style-type: none"> ○学習の見通しをもつ ○本文を通読する ○論構成を把握する ○クマゼミの特徴を整理する 	○仮説と立証に着目して論構成を整理できるように支援する	ア(発言観察)
二	2	<ul style="list-style-type: none"> ○本論①②を音読する ○本論①の根拠を知る ○本論②の仮説(1)に必要なデータを読み取りそのデータが必要な理由を考える 	○問題提起の理由と提起手順について考える時間を十分にとる	イ(ノート観察)
	3	<ul style="list-style-type: none"> ○本論③を音読する ○仮説(2)に必要なデータを読み取りそのデータが必要な理由を考える ○仮説(2)の検証の問題点と改善方法について考える 	○データの比較対象と理由について考えられるように支援する	イ(ノート観察)
三	4	<ul style="list-style-type: none"> ○本論④を音読する ○仮説(2)に必要なデータを読み取りそのデータが必要な理由を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ○これまでの学習を確認し次の学習活動につながるように注意する ○必要な情報を精選し、要約できるように支援する 	イ、ウ(ノート提出)

		○仮説(1)から(3)の結果を要約する		
四	5	○筆者の意見をまとめる ○環境的視点で考えたときの問題点を考える ○身の回りの環境について考える	○本文の生物学的視点とこれからの学習の環境的視点を分けることができるように注意する ○自分の考えをもつ時間を十分にとる	ウ(発言観察)
	6	○身の回りの環境と自然とのつながりに着目したデータを収集する	〈フィールドワーク〉 ○安全面に十分配慮する	ウ(ワークシート提出)
	7	○集めた情報をもとに自分の考えをデータを用いて根拠を持って論理的に文章化する	○仮説、検証、結果、考えたことなど枠を作ることでデータを用いた文章作成を支援する	ア(ワークシート提出)